

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390400160		
法人名	株式会社 桜梅桃里		
事業所名	グループホーム 和楽の家 荘内		
所在地	岡山県玉野市長尾333-3		
自己評価作成日	令和 5 年 11 月 22 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅地でも、山が近くに見え自然がまだまだ残っている地域であり、騒音も無く心穏やかに過ごせる環境にあります。入居者様と職員が手を取り合い、ご自分で出来る事は介助しながらして頂き、ご自分でできる喜びと達成感を大切に生活していただいています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3390400160-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 12 月 14 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念に基づいた本年のホーム目標を、職員とともに設定し、“職員と利用者が共に楽しみ、家族との繋がりを大切にする”に、施設一丸となって取り組んでいる。行事の際には、施設内バイキングを提供し、気分転換を図る工夫をし、利用者は楽しいひと時を過ごすことができている。毎日の食事の際にも、職員は優しく語り掛け、笑い声が聞こえる微笑ましい様子が、印象的であった。行事や、壁面の作品作りなど、職員の意見を、積極的に取り入れる体制もできており、職員のやりがいとなっている。入浴に関しても、利用者の安眠に繋がるように、夜間浴に取り組むなど、介護部長が発案して、職員に相談し、より良いケアとなるように取り組んでいる。利用者の心に沿ったケアは、毎日の心地よい生活となり、その様子は家族に密に連絡するようにしている。家族は、安心でき、何かあったときには、すぐに駆け付けてくれる関係に結びついている。家族とは面会だけでなく、外出や外食も利用者は楽しむことができ、お寿司を食べに行ったり、お墓参りに行ったりすることができた。”花木がそれぞれ色も形も咲く時期も異なるように、「人」も、生きてきた「道」や環境がそれぞれ異なる”との理念は、職員の意識に深くしみ込んでおり、利用者が、いかに穏やかに生きがいを持って過ごせるかを、前向きな姿勢で充実させていた。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームと地域の交流を大切にできる よう理念に取り入れ、地域行事に参加し、つ ながり大切にしている。	理念は玄関、事務所に掲示している。法人理念 の他に、施設理念、ホームの目標や介護理念も 掲示している。管理者会議では、介護事業部指 針の読み合わせをしている。ホーム目標は、年度 始めに一人ひとりに目標を書いて頂き、介護部長 や管理者がまとめて職員の思いを1つにしてい る。	理念や目標を職員全体に浸透させてみて はいかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に交 流している	年2回、地域清掃には参加し交流をしている。 ホームでの行事は新型コロナウイルスの為行 われていなかったが、天気の良い日には散歩 等行っている	年2回、地域の溝掃除に参加している。地域の散 歩に出掛け、出会った方と挨拶を交わしている。 散歩中に綺麗な庭を見つけ、その地主の方か ら花をプレゼントされ、利用者は大いに喜んだ。 玉野市の中高生から「コロナに負けるな」のメッ セージを頂き、職員・利用者の励みとなった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向け て活かしている	運営推進会議をホームで開催する事を控えさ せていただき、ホームの状況を書面にて郵送 している。予定としては来年よりホームでの開 催を行いたいと計画している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、そこで意見をサービス向上に活かし ている	行政、ご家族様からのご意見が頂けるよう書 面をお願いしている。	現在は書面開催となっていて、家族、地域包括 支援センターの方に郵送している。入居者・職員状 況、行事報告、事故・ヒヤリハット、今後の活動予 定、生活の様子を伝え、「和楽ほっこりたより」に は利用者の写真を貼り、様子がわかりやすいよう に工夫している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業 所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に 伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者を中心に市町村担当者に事業所の現 状報告や分からない事は連絡をとり、連携を 取っている。	基本は介護部長だが、管理者が窓口となる場合 もある。長寿介護課、福祉政策課などの行政と は、随時連絡を取り、協力関係を構築している。 書類を直接持って行ったり、物品を取りに行つた りすることで face to face の関係が継続されてい る。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準にお ける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理 解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしな いケアに取り組んでいる	日中は玄関を開錠し、常に入居者様の所在 確認をおこなっている。両ユニットの職員が協 力し玄関の報知器がなれば、確認に行く。	身体拘束委員会では、身体拘束とは何かの基本 を学び、自己チェックリストを使って再確認も行っ ている。スピーチロックの研修では、職員から多く の意見が上がり、職員同士がお互いに言葉遣い に気を配れるようにフォローしている。両ユニット の施錠はなく、行き来は自由となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年4回職員は高齢者虐待について研修や話し合いを行っている。職員がストレスを抱えないよう話し合ってもいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市民後見人の研修を受けた職員が他の職員に分からない事があると説明し後見人制度を理解する機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には分かりやすく要約しながら説明している。退去時には納得して頂けるよう丁寧に説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には年に4回～5回、ご家族通信や和楽新聞を出したり、面会時にはホームでのご様子を細かく伝え、要望を聞いたり常にコミュニケーションをとっている。	面会は通常に戻り、居室で実施している。気軽に訪問して頂き、会話できる雰囲気づくりを心掛けていて、意見や要望を汲み取りながら、運営に反映(できるように)している。寒さ対策として、家族が大布団や防寒着を持ってきて頂き、家族や本人が衣替えを行っている。歩行状態が困難な方へは、自分に合った車イスの購入をして頂けた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月会議を開き、意見交換や不満・要望等、何でも言い合える雰囲気作りに留意している。	職員同士のチームワークを大切にしている、介護部長や管理者の仲の良さからも窺えた。職員間でケアが違わないように普段からも意思疎通を図っている。その時期にあった壁画を職員が考え、利用者と一緒に作成している。職員のお子さんが訪問して、クリスマスのプレゼント(の)交換もできた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、アセスメントを実施し評価している。人手不足で勤務的には厳しい現状である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内での研修は提示し職員に希望を聞いている。又職員が身に着けたい研修についても支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ハローワークで会社説明会時に交流し情報交換をしている。またオレンジリングの研修にも出来るだけ参加出来るよう心掛けている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様やケアマネジャーから情報を収集し事前面接時にご本人の要望や不安を聞き信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学に来られた時や電話での問い合わせ時に相談に乗って、安心して不安や要望等を話せるように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者には可能な限り対応を行い、ケアマネジャーと相談し他のサービス利用をつなげる等の対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様は人生の大先輩である事、自分が自分である事、共にある事などを念頭に接している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人のご様子を常日頃からお伝える事でご家族との協力関係が築く事が出来ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの為面会も中止の時期もあったが面会が再開されてからは面会のご家族も見られた。	面会は通常に戻り、居室で実施している。遠方の方でも、何かあればすぐに駆けつけてくれ、朝鮮漬けを持ってきて頂けた。家族との外出、外食、外泊も可能としている。ドライブしている最中に、サプライズで墓参りをしたら喜んで頂けた。以前は、誕生日には、好きな場所や食べ物を買いに掛かっていた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やおやつなどは同じテーブルで召し上がり、お互い話をされたり、職員が仲介し円滑な関係を築いている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	何かありましたら、いつでもご連絡くださいと伝え、継続的に付き合いが出来るよう心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日、コミュニケーションをとり、今の思いや希望を聞いたり、表情を読み取り不安なく生活できる様、努めている。	朝の挨拶や日中の行動から思いを汲み取り、その人らしさを大切にした支援を心掛けている。家族からエピソードシートを書いて頂き、生活歴や趣味を把握し、会話を広げるように工夫している。写真で賞を取った話をしたら喜んで頂け、パズルや塗り絵もその人のレベルあった物を提供している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴シートををご家族様に分かる範囲で記入して頂き、サービスの利用に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日、その時間によって入居者様の状態は違うので見極めながら、出来る事を見出し役割に繋げている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎にカンファレンスを開き、ご本人の状態に沿った介護計画を立てる様に心掛けている。	入居時に暫定プランを作成して、1週間、何もなければ6ヶ月毎に更新している。ケアマネジャーは通常の介護や夜勤も勤務しているので、利用者の状態を把握しやすい。また職員の意見も参考にしてプランに反映させている。カンファレンスは3ヶ月に1回、モニタリングは6ヶ月に1回見直しをして、プランの作成に役立っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ボールペンの色を変えながら、職員が情報を共有している。介護方法が変わったりした時には、連絡帳に記載して情報を確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々で臨機応変に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの為、外部からのボランティアの方の受け入れを中止しているので協働が出来にくい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医や精神科医、提携医以外の医師とも連携をとりながらご本人や家族が希望する医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医は、入居時に選んで頂けるが、ほとんどの方が協力医に転医している。内科、外科が月2回の往診。週1回、歯科衛生士が来られて、口腔ケアやブラッシング指導もして頂ける。訪問診療は職員が同行して、本人や家族の希望に添った医療を受けられる様に支援している。他科受診は、家族の方をお願いをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、会社勤務の看護師が来るので情報を伝え相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先の相談員や看護師に情報提供を行い、連携をとり早期退院出来るよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	出来るだけ早い段階から主治医・看護師・ご家族・管理者・ケアマネジャーで話し合い、情報交換や相談して、全員で方針を共有している。	看取りは実施している。入居時に、看取りに関する同意書にて説明をしている。重度化した際には、看取り介護計画書(ターミナルプラン)で確認し、同意を得ている。また、振り返りアンケートを実施し、家族から頂いた手紙には感謝の言葉が綴られていた。終末期におけるケアについての勉強会も実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新型コロナウイルスの為、救急講習法も受けられないが、マニュアルや資料も現場に置き、冷静に落ち着いて対応出来るように指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を行っている。ご近所の方にもお願いしている。	年3回、昼夜想定で火災と地震・水害対策を実施し、利用者も一緒に避難することができた。模擬消火訓練、避難誘導を行った。連絡網とハザードマップは事務所に保管している。備蓄は水や衛生用品が1週間分あり、事務所や各ユニットで保管している。また、おやつがいざという時の備蓄となっている。	災害対策を今一度見直してみたいかがでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様に対する言葉使いに気をつけ、常に人生の大先輩として敬意を払うよう心掛けている。	呼称の基本は苗字に「さん」付けだが、家族や本人の希望により「ちゃん」付けて呼ぶこともあるが、同意を得ている。指示するような言葉が苦手な方へは、見守り体制で、さりげなく気を配っている。パット交換の際には、扉の前から言葉掛けをして、プライバシーに配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるよう選択する際には2つに絞ったり、わかりやすいくみ砕いて声掛けするようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ここは家だと思って頂けるよう自然な雰囲気で行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に衣服を選んだり、髪を整えたりする中で、いつまでもオシャレに関心を持って頂ける様な声掛けをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備を職員と一緒にしたり洗い物をしたりと無理なく出来る事をして頂いている。	3食ケータリングで食材を施設で調理している。できる方には、じゃがいもや干し柿の皮むきや配膳・下膳を手伝って頂いている。週1回、朝パン食の日を設けていて、利用者の楽しみの一つとなっている。嫌いな物は、別の物に代替えしたり、食べやすいようにミキサー食にしたりする工夫が窺えた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事量や水分量をチェックし水分が進まない方には、ゼリー状にしたりして一定量の水分摂取を確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、出来にくい場合は介助を行っている。週1回歯科衛生士による口腔ケアを必要な方には行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導表に記入し排泄リズムを把握し、定期的にトイレ誘導を行っている。	トイレは各ユニット3ヶ所ある。排泄チェック表を活用して、タイミング良く言葉掛けをしているので、失敗が減った。尿意を感じた時点での失禁もあるが、トイレで排泄する習慣を大切にしている、気持ち良く排泄できるように配慮している。布パンツで過ごされている方が8名いる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の確保や適度な運動を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	自宅で入浴しているように、リズムを狂わさない様にしている。	入浴は週2～4回の提供。1つのユニットでは、夜間浴も行っている。入浴を嫌がる方はおらず、スムーズに誘導でき、同姓介助も行っている。季節湯として、ゆず湯の提供もあり、入浴剤を使用して気分を変えることもある。その人や季節に応じて、温度調整をしているので、快適に入浴ができています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	車椅子の方は同じ姿勢で座っているのは疲れる為、午後1時間程ベッドで休んで頂いている。ご本人が休みたい時にも休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	連携している薬剤師と連絡を取り合い、情報交換し服薬管理や症状の変化に気を付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の生活歴・趣味等を把握し役割を持って生活して頂いている。又、カラオケやゲームをしたりとレクリエーションを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調が良い時や天候のよい日は駐車場内の散歩を行っている。新型コロナウイルスも落ち着いてきたので、感染予防を徹底し外出等もご家族と行っている。	天気の良い日には、ベランダで日光浴や駐車場内を散歩したりして、気分転換を図っている。浄化センター公園へ花見へ行き、近隣のショッピングセンターへ買い物や外食に出掛けている。かこの専門店でも美味しそうに蟹を頬張る利用者の様子が写真からも窺えた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様と相談の上、施設で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っておられる方は、自由に電話されている。その他の方は希望があれば固定電話で連絡されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり玄関にはアロマを置いたりしてリラックスして過ごして頂けるよう心掛けている。冷暖房の管理は職員が行っている。	天窓から明るい光が差し込むリビングで利用者は、テレビ、塗り絵、手作りゲーム、雑誌や新聞、カラオケをして楽しんでいる様子が窺えた。壁面には、季節が感じられるように、利用者と一緒に作成した飾りが貼られていて、12月はクリスマス用のリースやツリーが飾られていて、華やかな様子だった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の部屋等落ち着いて過ごせる場所もあり、ホールにはテレビ・ソファ・カラオケを置き、居室以外でも、のんびり過ごして頂けるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使われていた家具やインテリアなど、好きな物を持って来られ、なるべくご自宅に近い雰囲気になっている。	備え付けはベッド、エアコン、照明。ベッドは介護度に応じて、電動ベッドかスウェーデンベッドのいずれかにしている。利用者は、居室ではテレビを観たり、本を読んだりして自分の時間を過ごしていた。家族の写真や職員からプレゼントされた誕生日カードが大切に飾られていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援に向けて「できる事」を見い出し、職員一同支援している。理解しやすいようにトイレ等に大きく張り紙をしたりしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390400160		
法人名	株式会社 桜梅桃里		
事業所名	グループホーム 和楽の家 荘内		
所在地	岡山県玉野市長尾333-3		
自己評価作成日	令和 5 年 11 月 22 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅地でも、山が近くに見え自然がまだまだ残っている地域であり、騒音も無く心穏やかに過ごせる環境にあります。入居者様と職員が手を取り合い、ご自分で出来る事は介助しながらして頂き、ご自分でできる喜びと達成感を大切に生活していただいています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3390400160-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 12 月 14 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念に基づいた本年のホーム目標を、職員とともに設定し、“職員と利用者が共に楽しみ、家族との繋がりを大切にする”に、施設一丸となって取り組んでいる。行事の際には、施設内バイキングを提供し、気分転換を図る工夫をし、利用者は楽しいひと時を過ごすことができている。毎日の食事の際にも、職員は優しく語り掛け、笑い声が聞こえる微笑ましい様子が、印象的であった。行事や、壁面の作品作りなど、職員の意見を、積極的に取り入れる体制もできており、職員のやりがいとなっている。入浴に関しても、利用者の安眠に繋がるように、夜間浴に取り組むなど、介護部長が発案して、職員に相談し、より良いケアとなるように取り組んでいる。利用者の心に沿ったケアは、毎日の心地よい生活となり、その様子は家族に密に連絡するようにしている。家族は、安心でき、何かあったときには、すぐに駆け付けてくれる関係に結びついている。家族とは面会だけでなく、外出や外食も利用者は楽しむことができ、お寿司を食べに行ったり、お墓参りに行ったりすることができた。”花木がそれぞれ色も形も咲く時期も異なるように、「人」も、生きてきた「道」や環境がそれぞれ異なる”との理念は、職員の意識に深くしみ込んでおり、利用者が、いかに穏やかに生きがいを持って過ごせるかを、前向きな姿勢で充実させていた。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームと地域の交流を大切にできるよう理念に取り入れ、地域行事に参加し、つながり大切にしている。	理念は玄関、事務所に掲示している。法人理念の他に、施設理念、ホームの目標や介護理念も掲示している。管理者会議では、介護事業部指針の読み合わせをしている。ホーム目標は、年度始めに一人ひとりに目標を書いて頂き、介護部長や管理者がまとめて職員の思いを1つにしている。	理念や目標を職員全体に浸透させてみてはいかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年2回、地域清掃には参加し交流をしている。ホームでの行事は新型コロナウイルスの為行われていなかったが、天気の良い日には散歩等行っている	年2回、地域の清掃に参加している。地域の散歩に出掛け、出会った方と挨拶を交わしている。散歩中に綺麗な庭を見つけ、その地主の方から花をプレゼントされ、利用者は大いに喜んだ。玉野市の中高生から「コロナに負けるな」のメッセージを頂き、職員・利用者の励みとなった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議をホームで開催する事を控えさせていただき、ホームの状況を書面にて郵送している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政、ご家族様からのご意見が頂けるよう書面をお願いしている。	現在は書面開催となっていて、家族、地域包括支援センターの方に郵送している。入居者・職員状況、行事報告、事故・ヒヤリハット、今後の活動予定、生活の様子を伝え、「和楽ほっこりたより」には利用者の写真を貼り、様子がわかりやすいように工夫している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者を中心に市町村担当者に事業所の現状報告や分からない事は連絡をとり、連携を取っている。	基本は介護部長だが、管理者が窓口となる場合もある。長寿介護課、福祉政策課などの行政とは、随時連絡を取り、協力関係を構築している。書類を直接持って行ったり、物品を取りに行ったりすることで face to face の関係が継続されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関を開錠し、常に入居者様の所在確認をおこなっている。両ユニットの職員が協力し玄関の報知器がなれば、確認に行く。	身体拘束委員会では、身体拘束とは何かの基本を学び、自己チェックリストを使って再確認も行っている。スピーチロックの研修では、職員から多くの意見が上がり、職員同士がお互いに言葉遣いに気を配れるようにフォローしている。両ユニットの施錠はなく、行き来は自由となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年4回職員は高齢者虐待について研修や話し合いを行っている。職員がストレスを抱えないよう話し合ってもいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市民後見人の研修を受けた職員が他の職員に分からない事があると説明し後見人制度を理解する機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には分かりやすく要約しながら説明している。退去時には納得して頂けるよう丁寧に説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には年に4回～5回、ご家族通信や和楽新聞を出したり、面会時にはホームでのご様子を細かく伝え、要望を聞いたり常にコミュニケーションをとっている。	面会は通常に戻り、居家で実施している。気軽に訪問して頂き、会話できる雰囲気づくりを心掛けていて、意見や要望を汲み取りながら、運営に反映(できるように)している。寒さ対策として、家族が大布団や防寒着を持ってきて頂き、家族や本人が衣替えを行っている。歩行状態が困難な方へは、自分に合った車イスの購入をして頂けた	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月会議を開き、意見交換や不満・要望等、何でも言い合える雰囲気作りに留意している。	職員同士のチームワークを大切にしている、介護部長や管理者の仲の良さからも窺えた。職員間でケアが違わないように普段からも意思疎通を図っている。その時期にあった壁画を職員が考え、利用者と一緒に作成している。職員のお子さんが訪問して、クリスマスのプレゼント(の)交換もできた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、アセスメントを実施し評価している。人手不足で勤務的には厳しい現状である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内での研修は提示し職員に希望を聞いている。又職員が身に着けたい研修についても支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ハローワークで会社説明会時に交流し情報交換をしている。またオレンジリングの研修にも出来るだけ参加出来るよう心掛けている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様やケアマネジャーから情報を収集し事前面接時にご本人の要望や不安を聞き信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学に来られた時や電話での問い合わせ時に相談に乗って、安心して不安や要望等を話せるように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者には可能な限り対応を行い、ケアマネジャーと相談し他のサービス利用をつなげる等の対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様は人生の大先輩である事、自分が自分である事、共にある事などを念頭に接している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人のご様子を常日頃から言葉でお伝えすると共に、ホームでの生活の様子を写真等で職員から説明する事によりご家族との協力関係を築く事が出来ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの為面会も中止の時期もあったが面会が再開されてからは面会のご家族も見られた。	面会は通常に戻り、居室で実施している。遠方の方でも、何かあればすぐに駆けつけてくれ、朝鮮漬けを持ってきて頂けた。家族との外出、外食、外泊も可能としている。ドライブしている最中に、サプライズで墓参りをしたら喜んで頂けた。以前は、誕生日には、好きな場所や食べ物を買って出掛けていた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やおやつなどは同じテーブルで召し上がり、お互い話をされたり、職員が仲介し円滑な関係を築いている。又外食をしたり、イベント時には施設バイキングを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	何かありましたら、いつでもご連絡くださいと伝え、継続的に付き合いが出来るよう心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日、コミュニケーションをとり、今の思いや希望を聞いたり、表情を読み取り不安なく生活できる様、努めている。	朝の挨拶や日中の行動から思いを汲み取り、その人らしさを大切にした支援を心掛けている。家族からエピソードシートを書いて頂き、生活歴や趣味を把握し、会話を広げるように工夫している。写真で賞を取った話をしたら喜んで頂け、パズルや塗り絵もその人のレベルあった物を提供している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴シートををご家族様に分かる範囲で記入して頂き、サービスの利用に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日、その時間によって入居者様の状態は違うので見極めながら、出来る事を見出し役割に繋げている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎にカンファレンスを開き、ご本人の状態に沿った介護計画を立てる様に心掛けている。	入居時に暫定プランを作成して、1週間、何もなければ6ヶ月毎に更新している。ケアマネジャーは通常の介護や夜勤も勤務しているので、利用者の状態を把握しやすい。また職員の見解も参考にしてプランに反映させている。カンファレンスは3ヶ月に1回、モニタリングは6ヶ月に1回見直しをして、プランの作成に役立っている	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ボールペンの色を変えながら、職員が情報を共有している。介護方法が変わったりした時には、連絡帳に記載して情報を確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々で臨機応変に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの為、外部からのボランティアの方の受け入れを中止しているので協働が出来にくい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医や精神科医、提携医以外の医師とも連携をとりながらご本人や家族が希望する医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医は、入居時に選んで頂けるか、ほとんどの方が協力医に転医している。内科、外科が月2回の往診。週1回、歯科衛生士が来られて、口腔ケアやブラッシング指導もして頂ける。訪問診療は職員が同行して、本人や家族の希望に添った医療を受けられる様に支援している。他科受診は、家族の方をお願いしている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、会社勤務の看護師が来るので情報を伝え相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先の相談員や看護師に情報提供を行い、連携をとり早期退院出来るよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	出来るだけ早い段階から主治医・看護師・ご家族・管理者・ケアマネジャーで話し合い、情報交換や相談して、全員で方針を共有している。	看取りは実施している。入居時に、看取りに関する同意書にて説明をしている。重度化した際には、看取り介護計画書(ターミナルプラン)で確認し、同意を得ている。また、振り返りアンケートを実施し、家族から頂いた手紙には感謝の言葉が綴られていた。終末期におけるケアについての勉強会も実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新型コロナウイルスの為、救急講習法も受けられないが、マニュアルや資料も現場に置き、冷静に落ち着いて対応出来るように指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を行っている。ご近所の方にもお願いしている。	年3回、昼夜想定で火災と地震・水害対策を実施し、利用者も一緒に避難することができた。模擬消火訓練、避難誘導を行った。連絡網とハザードマップは事務所に保管している。備蓄は水や衛生用品が1週間分あり、事務所や各ユニットで保管している。また、おやつがいざという時の備蓄となっている。	災害対策を今一度見直してみたいかがでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様に対する言葉使いに気をつけ、常に人生の大先輩として敬意を払うよう心掛けている。	呼称の基本は苗字に「さん」付けだが、家族や本人の希望により「ちゃん」付けで呼ぶこともあるが、同意を得ている。指示するような言葉が苦手な方へは、見守り体制で、さりげなく気を配っている。パット交換の際には、扉の前から言葉掛けをして、プライバシーに配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるよう選択する際には2つに絞ったり、わかりやすいくみ砕いて声掛けするようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ここは家だと思って頂けるよう自然な雰囲気与生活できるように支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に衣服を選んだり、髪を整えたりする中で、いつまでもオシャレに関心を持って頂ける様な声掛けをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備を職員と一緒にしたり洗い物をしたりと無理なく出来る事をして頂いている。	5長クーターアップで長材を施設で調理している。できる方には、じゃがいもや干し柿の皮むきや配膳・下膳を手伝って頂いている。週1回、朝パン食の日を設けていて、利用者の楽しみの一つとなっている。嫌いな物は、別の物に代替えしたり、食べやすいようにミキサー一食にしたいする工夫が踏えた	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事量や水分量をチェックし水分が進まない方には、ゼリー状にしたりして一定量の水分摂取を確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、出来にくい場合は介助を行っている。週1回歯科衛生士による口腔ケアを必要な方には行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導表に記入し排泄リズムを把握し、定期的にトイレ誘導を行っている。	トイレは各ユニット3ヶ所ある。排泄ケアブック表を活用して、タイミング良く言葉掛けをしているので、失敗が減った。尿意を感じた時点での失禁もあるが、トイレで排泄する習慣を大切にしている、気持ち良く排泄できるように配慮している。布パンツで過ごされている方が8名いる	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の確保や適度な運動を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	自宅で入浴しているように、リズムを狂わさない様になっている。入浴剤を用い、温泉気分を味わって頂いている。	入浴は週2～4回の提供。1つのユニットでは、夜間浴も行っている。入浴を嫌がる方はおらず、スムーズに誘導でき、同姓介助も行っている。季節湯として、ゆず湯の提供もあり、入浴剤を使用して気分を変えることもある。その人や季節に応じて、温度調整をしているので、快適に入浴ができています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	車椅子の方は同じ姿勢で座っているのは疲れる為、午後1時間程ベッドで休んで頂いている。ご本人が休みたい時にも休んで頂いている。又、足の浮腫み軽減の為夜間浴を取り入れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	連携している薬剤師と連絡を取り合い、情報交換し服薬管理や症状の変化に気を付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の生活歴・趣味等を把握し役割を持って生活して頂いている。又、カラオケやゲームをしたりとレクリエーションを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調が良い時や天候のよい日は駐車場内の散歩を行っている。新型コロナウイルスの為外出は会社から許可が出ていなかったが解禁となり、外出に行ってお楽しみされている。	天気の良い日には、ベランダで日光浴や駐車場内を散歩したりして、気分転換を図っている。浄化センター公園へ花見へ行き、近隣のショッピングセンターへ買い物や外出に出掛けている。かこの専門店で美味しそうに蟹を頬張る利用者の様子が写真からも窺えた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様と相談の上、施設で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っておられる方は、自由に電話されている。その他の方は希望があれば固定電話で連絡されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり玄関にはアロマを置いたりしてリラックスして過ごして頂けるよう心掛けている。冷暖房の管理は職員が行っている。	天窓から明るい光が差し込むリビングで利用者は、テレビ、塗り絵、手作りゲーム、雑誌や新聞、カラオケをして楽しんでいる様子が窺えた。壁面には、季節が感じられるように、利用者と一緒に作成した飾りが貼られていて、12月はクリスマス用のリースやツリーが飾られていて、華やかな様子だった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の部屋等落ち着いて過ごせる場所もあり、ホールにはテレビ・ソファー・カラオケを置き、居室以外でも、のんびり過ごして頂けるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使われていた家具やインテリアなど、好きな物を持って来られ、なるべくご自宅に近い雰囲気になっている。	備え付けはベッド、エアコン、照明。ベッドは介護度に応じて、電動ベッドかスウェーデンベッドのいずれかにしている。利用者は、居室ではテレビを観たり、本を読んだりして自分の時間を過ごしていた。家族の写真や職員からプレゼントされた誕生日カードが大切に飾られていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援に向けて「できる事」を見出し、職員一同支援している。理解しやすいようにトイレ等に大きく張り紙をしたりしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない